

関係人口を創り活かす仕組みづくりに関する調査研究報告（概要）

鹿野町総合支所 地域振興課

1. 調査の背景と目的

人口減少が進行していく中、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる「関係人口」に着目し、地域外からの「関係人口」を増やすことが必要となっている。

関係人口創出および関係人口と地域・地域住民を継続的につなげ活かすためには、どのような仕組みが必要とされているのかを明らかにすることによって、今後の取組みにつなげていくことを目的として実施した。

2. 調査概要

調査は主に、①関係人を受け入れる側である鹿野町住民に対して「関係人口」およびその活動に対する心理的態度の傾向、②都市部の大学生の「関係人口」としての潜在的可能性、③都市部の大学生が「関係人口」となるための必要要素の3つの側面から実施した。

質問紙調査（表1）は、都市部の大学生に対しては、①10項目の5件法による選択式の質問、②2項目からなる複数回答可の質問、③2項目からなるキーワード調査の3部構成、鹿野町住民に対しては、①48項目からなる5件法による選択式の質問、②2項目からなるキーワード調査の2部構成とした。

インタビュー調査（表2）は日常会話から潜在意識を聞き取る手法によって実施した。

表1 質問紙調査概要

調査対象	調査期間	回収数（回収率）
①A大学（近畿地方）	令和2年1月6日	33（100%）
②B大学（北海道地方）	令和2年1月27日および28日	217（100%）
③鳥取市鹿野町	令和元年10月下旬～令和元年11月17日	911（約43%）

表2 インタビュー調査概要

調査対象	調査期間	対象者	インタビュー時間
①	令和2年1月6日	6名（男性）	各約1時間
②	令和2年1月28日	3名（女性2名、男性1名）	同上
③	令和2年1月24日、3月23日、3月25日	3名（女性1名、男性2名）	同上

*③は鹿野町鹿野地区、今市地区、河内地区

3. 調査結果

大学生への調査結果

都市部の大学生は、質問紙調査の結果、①旅行を好み、②社会貢献に関心はあるものの、③地方のまちの活性化に「関係人口」として関わりたいとは、特段感じていない傾向が明らかになった。

また、インタビュー調査の結果、関係人として地方での活動に参加するための実質的な条件として、①交通費の補助や交通の便のサポートや、②事前に地域の人との信頼関係を構築したいと望んでいることが明らかになった。

鹿野町住民への調査結果

調査対象地域の鹿野町住民は、質問紙調査の結果、①地域づくりは住民と行政の協働で行われるべきであり、②潜在的関係人（今後「関係人口」となり得る地域外の人々）である地域住民以外の人々や、若者のアイデアは重視されるべきであると考えている傾向が明らかになった。

また、インタビュー調査の結果、関係人を鹿野町が受け入れる際の課題として①車を手に入れるまでの交通の便の悪さ、②地域づくりに関わりたいものの、地域住民として関わる時間などが無いことが認識されていることが明らかになった。

4. 今後の取組

本調査結果から、地域住民・各種団体との連携のもと、①交通に焦点をあてた対策、②地域住民と潜在的関係人との信頼関係の事前構築への対策が、「関係人口」を創り活かすために肝要であると考えられる。

このための取り組みとして、①に対しては、関係人へ交通手段を提供する代わりに関係人が地域住民に対して何らかの生活の支援を行う「相互扶助的なサービス」や関係人への「相乗りサービス」などを提供するためのシステムの構築、②に対しては、都市部において、地域の出身者が様々な活動やイベントを継続して実施し、潜在的関係人と事前の信頼関係を構築するためのシステム作りを考えていく必要がある。